

研究プロジェクト 6. 「アジア・オセアニア地域における会計・監査問題」

本プロジェクトでは、「アジア・オセアニア地域における会計・監査問題」という幅広いテーマのもとで、さまざまなデータベースを整備するなど研究環境を充実させることで、内容と手法の両面において多様な研究成果を、学会・研究会での報告や論文の公表という形で国内外に発信しています。

現在取り組んでいる研究テーマの具体例としては、以下のようなものが挙げられます。

- COVID-19 とディスクロージャー
- 情報情報（定性情報、自発的開示情報）の情報有用性
- 財務情報における経営者バイアス
- 国際会計基準（IFRS）適用の帰結
- 専門的会計判断に対する言語文化的要因の影響プロセス
- 日本企業の配当行動
- 財務会計システム・基準が企業行動に及ぼす影響
- 債務契約における会計情報の利用と帰結
- 経営者能力の測定と影響
- コーポレートガバナンスと会計行動
- ゴーイングコンサーン開示

また、国立台北大学、インドネシア大学それぞれと、定期的に研究会を開催することで、お互いの研究成果を報告するとともに、研究者間の交流を活発化する機会を設けています。

近年の研究成果としては、以下のものが挙げられます。

【論文】

- T. Kochiyama and R. Nakamura. 2020. Debt covenants in Japanese loan markets: In comparison with the traditional relationship banking. *Accounting and Finance*, forthcoming.
- H. Fukukawa and H. Kim. 2017. Effects of audit partners on clients' business risk disclosure. *Accounting and Business Research* 47: 780 – 809.
- 寺嶋康二・塚原慎・積惟美(2020)「企業の資本調整行動の実施効果に関する論点整理—リキャップ CB に着目して—」『産業経理』 第 80 巻第 3 号, 掲載予定。
- 金鐘勲・中野貴之・成岡浩一(2019)「IFRS 任意適用企業の特性」『会計プロGRESS』 第 20 号, 78-94 頁。
- 円谷昭一・柳樂明伸・金鐘勲(2020)「政策保有株式と会計数値の関係」『資本市場』 第 417 号, 56-66 頁。
- 積惟美(2019)「銀行の追い貸しが繰延税金資産の調整行動に与える影響」『会計プロGRESS』 第 20 号。

【図書】

- 円谷昭一『政策保有株式の実証分析』日本経済新聞出版, 2020 年。
- 中村亮介・河内山拓磨「財務制限条項の実態・影響・役割」中央経済社, 2018 年 (第 61 回日経・経済図書文化賞受賞)。